スカンディナビアの海岸地形——Varanger フィヨルド南岸の Gandvika 湾
(70°01'N, 29°10'E) (1967年4月)

氷期後に起ったユースタティック運動および土地の隆起の結果として、スカンディナビアの各地には化石海岸段丘および高い海蝕面がみられる。この種の地形は特にノルウェー北部のフィヨルドや内湾では顕著で、最も古い段丘ないし海蝕台が現海面より約70m もの高所に存在する。フェノスカンディア陸塊の隆起の中心部すなわちボスニア湾の北端では、これらの土地の隆起は約300m にも及んでいる。

(写真上) 比較的若い、そして比高の小さい沿岸の階段状地形の配置が、残雪の模様からよく判別できるし、またこの湾をとりまく最も高い平坦な面は海蝕台である。

(写真下) この海蝕面の下部に存在する、海蝕による急斜面および海岸段丘面は連続的で明瞭な違いがみられないので、海面に対して傾斜を異にしながら、急傾斜している段丘面もまず海蝕面とみることができよう。ただそれらはたび重なる海進のために、不完全にしか形成されなかつたものであろう。化石化した沿岸の急斜面は約8000年ほどのあいだの連続的な土地の隆起および、それに若干のユースタティック運動に基づく海面変化が加わつた結果として形成されたものである。
(Dr. Horst BRONNY)